

非正規雇用で働く シングル女性の実態調査

ワンステージアップの支援で、生活の維持向上『生活サスティナビリティ』を

非正規シングル女性をめぐる課題は多様であり、当事者が抱える不安も大きい。しかし、状況を一気に改善することをめざすのではなく、現在の状況からステージを一段上げること、つまり「ワンステージアップ」をめざすことで、いくつかの不安や不満は少しでも取り除けるのではないだろうか。非正規シングル女性への公共政策の支援には、焦らず少しずつでもエンパワメントすることから始めることが大切であると言えるだろう。

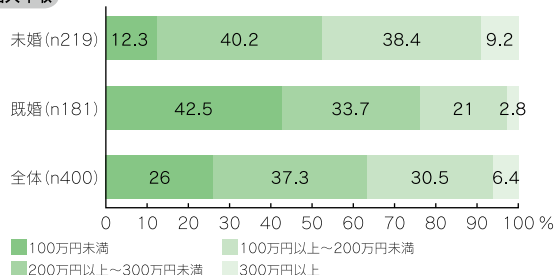
調査の背景と目的

人口労働市場の状況を見ると、婚姻数の伸び悩み、未婚率の上昇の結果、シングル人口の増加等がある。また、1980年代以降の雇用情勢と雇用政策の推移にともない、男女ともに正規雇用人数は増加しておらず、非正規雇用は増加している。このような社会状況の中で、非正規雇用のシングル女性が、「いかに働き生活するか等、自らの仕事と生活についてどのように考えているのか」について実態を明らかにし、これからの男女共同参画社会の実現に向けてとるべき施策を検討することを目的に本調査を実施した。

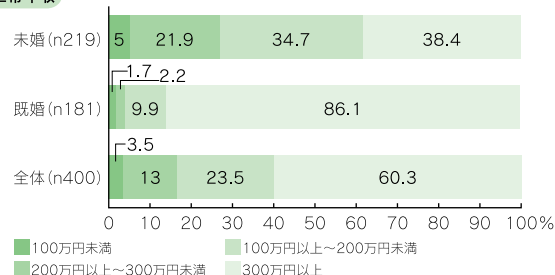
結果の概要

- ・回答者の6割が「パートタイム・アルバイト」として就業。雇用期間の定めについては、7割以上が「雇用期間の定めがない」と回答。
- ・婚姻状況別に見ると、未婚の6割が週30時間以上働いている。一方で、既婚では約半数が週20時間未満の勤務であり、就業調整していることがうかがえる。
- ・未婚の5割以上が「個人年収200万円未満」であり、世帯収入で見ても3割近くが「200万円未満」。未婚の半数に同居者があり、同居理由について4割が「自分自身が一人暮らしするには経済的に困難だから」と回答。現在の暮らしが「家族」で支えあうことで成り立っていることがわかる。

個人年収



世帯年収



- ・未婚の3割が非正規雇用という働き方を「やむを得ず選択した働き方である」(不本意)と回答。自由記述を見ると、「自ら望んで選択した働き方である」(本意)とする回答の中にも、「不本意非正規」と思われる回答が複数見られる。

調査方法

インターネットによるウェブアンケート調査

調査対象

20～50代の大阪市内在住の非正規労働者で子どものいない女性400名

調査会社登録モニターにより条件該当者を抽出

※社会保障や行政施策の対象外であることの影響について把握するため、「既婚」については戸籍婚のみを対象とした。また、既婚・未婚ともに同居、別居を問わず子どもの「いない」人を調査対象とした。

調査期間

2018年9月21日(金)～28日(金)

協力研究員

森 詩恵(大阪経済大学経済学部教授)

実施機関

大阪市立男女共同参画センター中央館

<http://www.creo-osaka.or.jp/research/theme.html#h30>